

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 124 号

大学生柔道競技者における柔道実践の動機づけの因子構造とその信頼性

(Factor structure and reliability of motivation for judo practice among college judo athletes)

佐々木 康允 (ささき やすまさ)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

本研究は柔道競技登録人口減少という問題に対して、先行研究による指導者と競技者の意見の乖離という課題に着目し、柔道を実践している動機づけについて心理学的手法を用いて論理的に検証している。柔道競技を実践している大学生の自由記述回答を基にした柔道実践の動機づけの実態を、客観的指標による潜在因子から動機づけの全体傾向を把握した報告は過去にみられず、これらの点について独創性があると考ええる。

【研究方法の妥当性】

大学生柔道選手を対象にしたアンケート調査においては研究主旨と自由記述式の説明などを充分に行ったうえで実施している。得られたデータによる因子分析については、様々な抽出法での分析結果を比較検討しており、抽出された因子構造については因子として十分に解釈が可能な項目かどうかを検討しており、妥当性があると考ええる。

【結果・知見の新しさ】

これまで自由記述回答に基づいた柔道実践の動機づけの因子構造を客観的に明らかにした研究は見当たらない。本研究では大学生の柔道実践の動機づけについて数量的に分析し、それぞれ内的整合性の高い5つの因子を抽出している。また、属性との関係および一部の因子における性差を示していることも合わせて新しい知見を得たと考える。

【考察および結論の妥当性】

テーマである「動機づけ」の解釈については多様な意味合いを持っており、本研究方法で全てが明らかにすることは出来ないが、本研究の考察は、動機づけに関するあらゆる先行研究や関係団体の資料を踏まえつつ、因子構造全体と各因子、因子間相関、各因子と属性の関係について丁寧に論文を展開しており、結論も含めて妥当性が高いと判断される。

【研究の当該分野における位置づけ】

本研究は、今後の柔道実践の動機づけ研究の基礎的な知見となりうる。また、動機づけに即した柔道競技現場での柔道指導への活用のうちでは重要な資料となる。

【質疑に対する応答の適切性】

研究内容に関する質疑に対して、誠実かつ論理的に応答していた。いくつかの質問では答えに窮する場面もあったが、応答は質問の意図から外れることはなく、研究内容に関する知識を十分に有していることも確認された。結果から主張できること、できないことを理解していることが確認できた。

【論文審査の結果】

研究内容の発表と口頭試問による審査を通じて、本論文は博士号に相当する内容であると判断し、博士論文発表会（最終試験）において発表を「可」と判断した。